

# 期 中 の 評 価 個 表

整理番号 50

事業名	大規模林業圏開発林道事業	事業計画期間	昭和48年度～平成17年度
事業実施地区名 (着工中区間) (都道府県名)	八戸・川内線 (穴沢・上外山区間) (岩手県)	事業実施主体	独立行政法人緑資源機構
事業の概要・目的	豊富な森林資源に恵まれた地域において、基幹的な林道を整備し、林業を中心とした地域振興を図る。 延長73.7kmのうち 穴沢・上外山区間の延長34.1km、幅員7.0m		
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化	事業評価システム導入前に着工しており、費用対効果分析は未実施であるため該当しない。なお、着工中区間の残工事部分について費用対効果分析を試行した結果は、以下のとおりである。		
	総 便 益(B) 1,517百万円 総 費 用(C) 1,384百万円 分析結果(B/C) 1.10		
森林・林業情勢、農山漁村の状況その他の社会経済情勢の変化	関係町村の過去5年間の事業量(間伐)は前回の評価時と比較して増加している。 受益地において今後、事業量(素材生産)は増加する見込みである。 本区間の完成部分は岩泉町東部の森林地帯から中心部への素材の輸送ルートの一つとして利用されているほか、本区間の整備により関係町村の森林地帯からの素材の輸送ルートとして利用されることが期待される。 本区間の整備により町村間のアクセスが大幅に改善されることが期待される。なお、完成部分は国道の被災時に迂回路として利用された。 残工事部分の用地はすべて取得済みである。 貴重動植物については、現時点で岩手県の関係課が得ている情報の範囲内では特筆すべき事項はない。 丸太伏工等の景観に調和する木製構造物を積極的に採用している。		
事業の進捗状況	進捗率96% うち穴沢・上外山区間 進捗率90%		
関連事業の整備状況	川井村では国産カラマツの集成材加工に取り組んでいる。		
地元(受益者、地方公共団体等)の意向	農林業等の地域の振興に重要な役割を果たすとともに、川井村と岩泉町を結ぶ連絡道として機能することから岩手県、関係町村及び受益者は早期完成を要望している。		
事業コスト縮減等の可能性	施工能力の高い32トンブルドーザーなどの利用の積算への反映、及び構造物への二次製品の採用により、コスト縮減や工期の短縮を図っている。 舗装や路盤材にアスファルト再生合材等を使用し、コスト縮減と建設副産物の有効利用を図っている。 鋼橋桁に塗装が不要な耐候性鋼を採用し、コスト縮減と省メンテナンスを図っている。		
代替案の実現可能性	該当なし		
第三者委員会の意見	森林の有する多面的機能の発揮、林業・林産業の活動の見通し、地域振興への貢献度等を総合的に検討した結果、事業を継続することが適当と考える。		
評価結果及び実施方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要性： 豊富な森林資源を有しているものの、過疎化等の厳しい条件下にある地域であることから事業の必要性は認められる。</li> <li>・ 効率性： コスト縮減に努めているほか、費用対効果分析を試行した結果、費用以上の効果が見込まれることから、事業の効率性は認められる。</li> <li>・ 有効性： 受益地の事業量は増加する見込みであること、本区間の整備により町村間のアクセスが大幅に改善されることから事業の有効性は認められる。</li> </ul> 事業の実施方針： 着工中の穴沢・上外山区間については継続とする。		